

(2) 米作り

昭和村の土地利用図からもわかるように、田は川に沿ってつくられています。ここは平地が広がっており、水もたくさんあるからです。

農家ではトラクターや田植え機、コンバインなどのいろいろな機械を使って仕事をしています。また、農家の人たちは田植えや稲刈りなどの忙しいときになると、協力して仕事を進め、米作りにはげんでいます。

春になると、農家の人は苗どこの雪をかたづける仕事から始めなければなりません。そして、肥料をまけた土に種もみをまき、育苗器に入れて苗を育てます。その後は苗をハウスに移し、気温が下がりすぎないように注意しながら大切に育てます。今は農協(JA昭和)の育苗センターが各地区にあり、そこでまとめて苗を育てたりしています。

苗を育てている間、肥料と土をよくまぜるために田おこしや水を入れて代かきを始めます。こうして苗がよく育つ土にしてから、ハウスの中で大きくなった苗を植えるのです。

夏には、田の水がかわないように見て回ったり、草取りをしたりします。また稲を病気や害虫から守るために無人ヘリコプターや消毒器で何回か消毒をします。

<米作りごよみ>

4月	・雪をかたづけ苗どこのをつくる。 ・種もみをまく。
5月	・たいひなどの肥料をまく。 ・田おこしをする。 ・代かき、田植えをする。
6月	・水の管理をする。 ・あぜの草刈りをする。
7月	・草取り、消毒をする。
8月	・追肥をする。